

研究活動

■実践アジア開発研究室

カンボジアにおける農業大学の教育・研究強化に向けた共同研究の実施

20年以上にわたる内戦を経て、極度の貧困状態に陥ったカンボジアの農家は、現在も農業生産性と所得の低さに悩まされています。しかし、1970年代のポルポト政権下におけるジェノサイドやその後の内戦による人材不足は深刻な状況にあり、自国の農業に関する問題点を見出し、解決策を示していくべき農業大学は、その役割を果たせていません。ICREAは2000年よりカンボジア王立農業大学（RUA）の教育研究強化を支援し、教育制度の改革や修士・博士課程の設立に貢献してきました。2008年からは、座学教育から、農村における実習や実践を伴った教育・研究の導入に向けた人材育成に力を入れています。

本来であれば十分な収益が得られるはずである伝統的な農産物加工品や野菜生産などに焦点をあて、その現状や課題を把握し、解決方法を提案・実証する研究と、その結果を普及する社会実装とを組み合わせることで実施しています。

研究と社会実装の両者を手掛けることで、カンボジアの大学教員や学生に農村調査による基礎研究や問題解決型の実践研究に従事する機会を提供し、自国の農業問題の把握や解決に資する研究成果の蓄積を目指しています。



日本人専門家による高産農家への技術指導

ネパールの森林保全における家畜糞尿を用いたバイオガス導入の効果に関する実証研究



荒廃するネパールの森林

多くの開発途上国では、日々の煮炊きにする薪炭材の採取が森林減少の一要因として挙げられています。家畜糞尿を用いたバイオガスは、薪炭材の代替品として NGO や国際機関の支援を通じて多くの開発途上国において急速に導入が進められていますが、薪炭材利用量の削減という効果以外は明確になっていません。本研究では、バイオガスの導入から20年近く経過しているネパールの丘陵地において、バイオガスの導入が薪炭材利用量だけでなく、森林植生、地域住民の生計活動、森林管理体制などに対する正負の影響について、定量的・定性的な実態調査に基づいた分析を行っています。

(伊藤 香純)

刊行物

農学国際協力

URL : <https://icrea.agr.nagoya-u.ac.jp/jpn/journal/backnumber.html>

学術雑誌「農学国際協力 (Journal of International Cooperation for Agricultural Development)」は、農学を武器に国際協力分野に身を投じようという人材を育成していくためのプラットフォームの役割を目指しています。このため、本誌は、農学的視点から世界の実像を理解するための論文や農学研究の国際的展開の可能性を示す論文、先進的研究の成果を世界的な問題の解決のために用いたケースレポートなどを査読付き学術論文として掲載しています。なお、投稿論文の編集作業はJISNASが行っています。また、Vol.14以降は、電子ジャーナルとして発行しています。



ICREA News

当センターが1年に2回発行している定期刊行物です。当センターが現在実施している研究活動などを掲載いたします。

